

## AIR CONDITIONING CONTROLLER AT VEHICLE SEAT

**Publication number:** JP1172012 (A)

**Publication date:** 1989-07-06

**Inventor(s):** SUZUKI TAKESHI

**Applicant(s):** SUZUKI MOTOR CO

**Classification:**


- **international:** **A47C7/74; B60H1/00; B60H1/24; B60N2/06; B60N2/44; A47C7/72; B60H1/00; B60H1/24; B60N2/06; B60N2/44; (IPC1-7): A47C7/74; B60H1/00; B60N1/00**

- **European:** B60H1/24B

**Application number:** JP19870329181 19871225

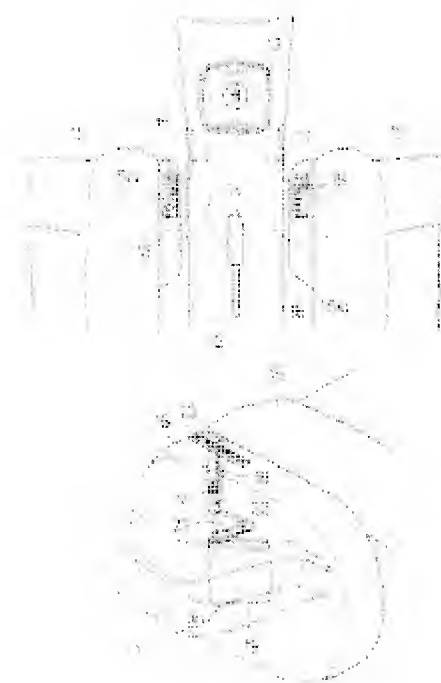
**Priority number(s):** JP19870329181 19871225

**Also published as:**

 JP2580659 (B2)

### Abstract of JP 1172012 (A)

**PURPOSE:** To arrange so that air conditioning may be conducted easily and manually by providing along a center console air conditioning ducts which are to be connected with air conditioning flow passages provided at seats, and making flow quantity regulating valves provided within ducts operatable in the vicinity of the side portions of seats. **CONSTITUTION:** A duct 11 piped from an air conditioner is arranged along a recess portion formed at the side portion of a center console 12, and the tip of the duct 11 is connected with an air conditioning flow passage 15a formed along the being seated surface of a seat 15 through a box body 16 whose height position is the same with that of a seat cushion provided at the side portion of the seat 15.; A groove 16a is formed on the upper surface of the box body 16, and this groove 16a is penetrated and the operation portion of a regulating lever 18 supported rotatably by means of a shaft 17 is made to protrude. And the other end of the regulating lever 18 is made to engage with the valve shaft 20 of a flow quantity regulating valve 19 provided within the air flow passage of the box body 16 portion through a link 21 and a rod 22, and opening regulation of the flow quantity regulating valve 19 is made possible by the operation of the regulating lever 18.



Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

## ⑫ 公開特許公報(A)

平1-172012

⑤Int.Cl.<sup>4</sup>

B 60 H 1/00  
A 47 C 7/74  
B 60 N 1/00

識別記号

1 0 2

庁内整理番号

V-7153-3L  
C-8608-3B  
7049-3B

⑬公開 平成1年(1989)7月6日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭発明の名称 車両用座席における空調制御装置

⑰特 願 昭62-329181

⑱出 願 昭62(1987)12月25日

⑲発 明 者 鈴木 健 静岡県浜名郡可美村増楽1648-4

⑳出 願 人 鈴木自動車工業株式会社 静岡県浜名郡可美村高塚300番地

㉑代 理 人 弁理士 専 優 美 外2名

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

車両用座席における空調制御装置

## 2. 特許請求の範囲

(1) 座席に設けた空調流路に、空調された空気を送るダクトを接続してなる車両用座席において、前記空調流路および前記ダクトによって形成する空気流路中に流量調節弁を介装し、前記流量調節弁を前記座席の側部付近で操作するように設けたことを特徴とする車両用座席における空調制御装置。

## 3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、空調装置を備える車両用座席、特にその空調制御装置に関する。

(従来技術)

自動車等の座席には、着座したときの快適性を増すために、座席内を空調した空気が流通する座席空調装置が提案されている。

実願昭62- 69827号公報に開示されているも

のは、第4図に示すように、シートクッション1とシートバック2に内部表面側に外部に通じる溝3が形成され、シートの溝開口部3aにはダクト4が設けられている。そして、溝を覆う座席表面は通気性部材で構成されている。このため、ダクト4から空調された空気を送り込むことによって座席を快適なものとすることができる。

(発明が解決しようとする問題点)

座席内の溝(空調流路)へ流入する空気は直接着座者に影響を与えるので身体の状態とともに空調を調節することが望ましい。そこで、インストルメントパネルに設けられている空調調整つまみを回して、最適の空調条件を設定しなおす必要がある。

ところが、空調調整つまみを回すときには、身体が座席から離れるために、身体も座席も条件が変わってしまい、空調条件を適度に設定することが困難になり、微妙な調整は不可能となる。また、空調条件も個人差があるので、複数

人乗車するときなど、その調節は更に煩雑となる。

本発明は、上記問題点を解決するために、座りながらにして各座席ごとに空調を行える車両用座席における空調制御装置を提供することを目的とする。

(問題点を解決するための手段)

本発明は、上記目的を達成するために、座席の空調流路および空調された空気を送るダクトによって形成する空気流路中に流量調節弁を介装し、前記流量調節弁を座席の側部附近で操作するように設けたことを特徴とするものである。

(作 用)

各座席において着座したままで座席側部に位置する調節レバー18を前方または後方へ引くと、ロッド、リンク等で調節レバー18と連結している流量調節弁19が回転してダクト11の通路を狭くあるいは広くし、空調条件を変える。また、流量調節弁19は電動駆動手段で制御しても

3

れたリンク21と変位自在なロッド22で連結されている。23は調節レバー18の回転位置を示す表示プレートである。

次に作用を説明する。

着座時に座席15の位置を調節するとダクト11がセンターコンソール12内で追従しダクト長が調節される。ダクト11に空調された空気を流し、調節レバー18を適当な位置にセットしておく。その後、調節レバー18を前方または後方に動かすことによって、ダクト11に流れる空気の量を流量調節弁19で加減し(第3図(b)参照)、空調条件を微妙に変化させる。なお、調節レバー18と流量調節弁19とを連動させるために、電動駆動手段として使用してもよく、調節レバー18が前位置にあるときに弁19の状態は開、閉どちらに設定してもよい。

(発明の効果)

本発明は以上のように構成するものであるから、座席をスライドさせても、空調の操作箇所(調節レバー)は相対的に同じ位置にあるの

良い、この場合は調節レバー18はスイッチ手段となる。

(実 施 例)

本発明の実施例を第1図～第3図(a)、(b)に基いて説明する。

第1図は自動車内部のセンターコンソール部附近を上からみた図を示しており、空調装置から配管されたダクト11はセンターコンソール12の側部に形成した凹部に沿って配置されている。13はシフトレバー、14はサイドブレーキである。座席15には着座面に沿って空調流路15aが形成されている。そして、座席側部にシートクッションと同じ位の高さで取付けられた筐体16を通してダクト11と空調流路15aが連絡し、空気流路を形成している。第3図(a)、(b)において、筐体16の上面には溝16aが穿設され、軸17に回転自在に取付けられた調節レバー18の操作部が突出している。また筐体16部の空気流路中に流量調節弁19を介在し、軸20に回転自在に取付けている。調節レバー18は軸20に固定さ

4

で、一度その位置を認識すれば前方を見ながらでも操作でき、また、身体を座席から離さないで空調の流量を調節できるので着座時の快適性が保たれる。また、調節レバーを取付けたコントロール部である筐体は単体として座席に取付けることができるので、その他の部分の変更はほとんどなく低コストで付設できる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明による自動車のセンターコンソール部付近の平面図、

第2図は座席側部に取付けた筐体部分の断面図、

第3図(a)、(b)は調節レバーと弁との関係を示した説明図、

第4図は従来の座席空調装置の斜視図である。

11…ダクト、15…座席、16…筐体、

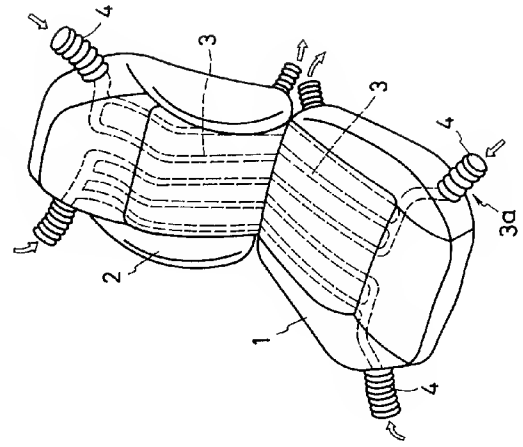
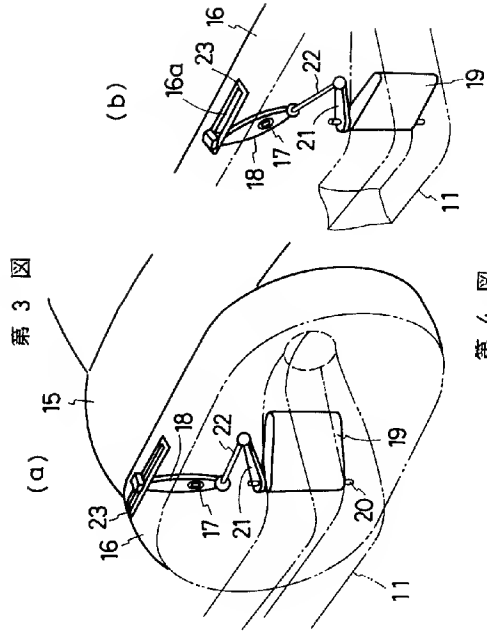
18…調節レバー、19…流量調節弁。

特許出願人 鈴木自動車工業株式会社  
代理人 弁理士 葛 優 美 (ほか2名)

5

6





第 3 図

第 4 図

